

製品名: ヒストン H1.0 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe85648**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	人間、ネズミ、ハムスター
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100
分子量	Calculated MW: 21 kDa; Observed MW: 30 kDa

抗原情報

遺伝子名	Histone H1.0
別名	Histone H1.0; Histone H1(0); Histone H1.0; N-terminally processed; H1F0; H1FV; Histone H5
遺伝子 ID	3005.0
SwissProt ID	P07305
免疫原	ヒトヒストン H1.0 の合成ペプチド

背景

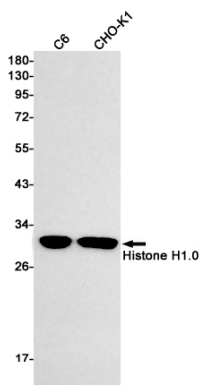
ヒストン H1.0 は、H1 リンカーヒストンファミリーに属するリジンを豊富に含むタンパク質です。H1 ファミリーのタンパク質は、ヌ

クレオソーム間のリンカー DNA と相互作用し、高次クロマチンへの凝縮を媒介します。ヒストン H1 は、ヌクレオソーム鎖の高次構造への凝縮に不可欠です。H1F0 ヒストンは、分化の終末期にある細胞、または細胞分裂速度が低い細胞に存在します。

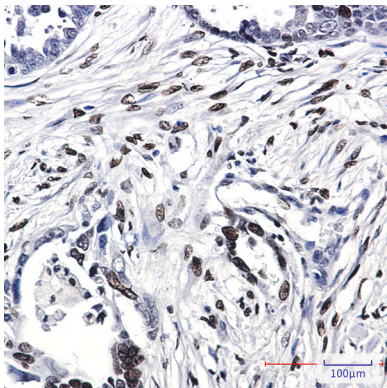
研究分野

-

画像データ



ヒストン H1.0 抗体を使用した C6、CHO-K1 溶解物中のヒストン H1.0 のウェスタンブロット分析。



ヒストン H1.0 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト胆管癌の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。